

創刊の辞

このたび桃山学院大学文学部英語英米文学科の発足にともない、同学科を母体とする学会が誕生することになり、併せて年二回機関誌を発行することにもなった。これがその創刊号であるが、学科もまだ発足したばかりで、この一兩年のうちにもさらに五名の担当教員の参加を待って、初めて完成の日を見るという状況にありながらの創刊であった。にもかかわらず発行に十分な原稿も集まり、ここに創刊号を送り出すことができたのは、まずは喜ばしいことというべきであろう。またここに、会員にかぎらず広く研究者のための発表の場を新たに提供できることになったことをも喜びたいと思う。

さて、いま大学の置かれている状況を振り返って、もしも研究のみを無条件にすべてに優先すべきものと捉えるならば、必ずしもその条件は順風満帆とは言い難い。教学、管理面に削られるべき時間は小さいとはいえぬ。もはや研究専門ブローラーのごとき存在は許されるところではない。しかしながら、むしろそのような厳しい状況を逆に捉え返して、自らの学問を強靱なものに鍛え上げてゆく糧とすべきものであろう。また、「学問にあまり時間を費すのは怠惰である」とベーコンも言うごとく、それによって学問の退廃からも救われ得るであろう。多少は痩せ我慢もあるにせよ、心意気はかくありたい。このうえは、本誌の内容の、ますますの充実と発展を願うほかにはないが、書くことの厳しさのみならず、また、書くことの喜びが読み手にも伝わるようなものへと育ちゆくことを切に願い、一層の努力を重ねてゆきたいものに思う。よろしく大方の御協力をお願いして創刊の辞を結ぶこととする。

西村 徹